

令和3年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立南石垣支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	校長が、学校の課題について整理できており、学校全体が落ち着いて運営できている。学校教育目標、学校運営計画が教職員に浸透し、その達成に向け、学部主事や分掌主任の協力関係が生まれている。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導體制の整備	初回訪問時の指摘事項に対して、組織的に問題解決に向け迅速に対応できている。また、業務改革に積極的に取り組んでいるが、教育資源ICT化の推進など新しい課題の解決にあたって、一部の教員に負担がみられ改善が望まれる。小・中・高の一貫性したキャリア教育についても工夫が望まれる。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時の迅速で適切な対応 * 法令に則った医療的ケア実施体制の整備	危機管理に関する各種のマニュアルの整備はできている。市との災害時の協議にも取り組んでおり、地域と連携した体制づくりを行っている。また、会議打合せスペースが有効に活用され、すばやい情報の共有と、対応についてシステム化している。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組	前回指摘事項のホームページによる情報伝達の改善が見られ、保護者や地域への情報発信が適切に行われている。また、コロナ禍の中、地区自治会と共同でボランティア活動に取り組むなど地域との交流の機会を確保する努力をしている。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 * 組織的に取り組む校内体制の整備	小・中学校等への巡回相談の件数が少なく、センター的役割の改善が望まれる。
学習指導	1 授業	* 障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	学びの履歴を活用し、指導内容の共有ができており今後の成果を期待する。授業見学では、子どもたちが落ち着いて授業に集中できており、iPadを上手く活用し、主体的な学習が行われている。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* チェックリスト等に基づく実態把握の実施 * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 * 保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援	「学びの履歴」に基づき、適切な実態把握が行われている。小中高通して効果的な指導ができることを期待する。
	3 授業研究・授業改善	* 社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 * 計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	各学部ともICTを利用した授業の工夫が見られる。対象となる子どもの理解を進めるためのツールや、授業改善のシートや解説書の作成など積極的に授業改善を行っている点は評価できる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握	ワーキングフェアを始め、様々な取り組みが行われており、学校全体で組織的に雇用への理解、啓発に取り組んでいる。また、小学部から卒業後の進路希望の確認など、適切な進路指導が行われている。定着支援については、過去10年間の卒業生の進路状況を整理し、細かい改善を進めている。今後も、長期的視野に立ったフォロー体制の構築が望まれる。
	2 就業体験の機会の確保	* 福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	実習先や就労先の確保に向け、職場開拓を積極的に行っている。高等部を中心に産業現場での実習が実施されている。
	3 職場開拓	* 地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 * 教職員・保護者が一丸となった職場開拓	地域の企業や福祉施設、福祉・労働の関係機関等との連携を図り、職場開拓が行われている。職場開拓については、年度毎の実績データの蓄積と、保護者の積極的な関わりが望まれる。
豊かな心・健やかな体の育成	1 社会自立に向けた教育	* 互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 * 卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導	情報モラルの取り組みが積極的に実施できている。情報モラルの学習を積極的に取り入れ、SNSの利用やスマホの使い方の指導を行っており、今後の効果に期待する。
	2 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組	「子ども支援カード」を用いて、児童生徒理解を図り、組織的な取り組みが行われている。
	3 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	スクールカウンセラーへの相談件数が少ない。一層の活用が望まれる。また、教育相談に関するさらなる研修の充実が望まれる。
	4 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	コロナ禍の中、可能なかぎり実施しているが、さらなる交流のあり方の工夫が求められる。
	5 安全管理・医療的ケア	* 教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制が整備	緊急対応マニュアル始め、適切な危機管理体制がとられている。ヒヤリ・ハットの報告件数が上がっており、職員の意識も高い。また、対応の好事例をキラリグッドとして共有する仕組みは評価できる。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	* 教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	よりよい学校となるために改善の努力を惜しまない姿勢が教員に浸透している。児童・生徒と教員の関係が良好で、明るく落ち着いた雰囲気の中で学びのびと学ぶことができている。ICTを積極的に活用し、発達に応じた適切な指導や配慮がなされている。
総合評価	全体的に落ち着いており、学習環境がよく整備されている。前回の指摘事項について、迅速に対処する姿勢と実現する校内体制を備えている。特に授業でのICTの活用は様々な工夫がされていた。また、教員の専門性向上の取り組みでは、新人・若手教員の基礎的研修と、ベテラン教員のキャリア育成研修の住み分けをしていることについて、教員対象の調査などを実施して次年度に活かされることを期待する。		
校長コメント	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の使命である地域のセンター的役割の推進並びに校内の教育相談の充実を来年度に改善すべき重要課題に位置づけ、明確な目標設定や適材・適所の人材配置を行い、課題解決に取り組むようにする。 ICT環境の整備、活用について、校内研修を工夫・充実させて全教職員の知識・技能面のレベルアップを図り、情報部員等に過重な負担がかからない体制づくりを行う。 進路指導においては、キャリア教育のさらなる充実と職場開拓の観点から、地域の一般企業での「産業現場等における実習」を推進していく。 		